

Eyriès. Jean Baptiste Benoît. Costumes, mœurs et usages de tous les peuples suite des gravures coloriées, avec leurs explications (ou un texte explicatif). Paris, Gide Fils, 1821, 2 v. in 1, 96 plates (copper. hand-col.) 26.2×17.1cm <383. 1-E>
Hiler p. 300 Colas 1011

本書の扉頁には上記の書名、及び出版事項が明記されているが、これと、本書に関する Hiler や Colas の文献目録の記事との間には食違いがある。第 1 に名の末尾が Hiler では Benoît であるが、Calas では Benjamin である。第 2 に、本書はそれぞれ 24 枚ずつの図版を含むイギリス、オーストリア、ロシア、トルコ、中国の国別の 5 章から成る 1 巻本であるのに対し、目録では 18 枚ずつの図版を含む 2 巻本となっている。第 3 に、本書の図版には全く署名が無いのに対し、目録では全図版に原画のシャスラ (Chasselat) と彫版のクェ (Couët) の署名ありとしている。一方、Hiler 及び Colas の文献目録に掲げられている同じエリエスの他の著作のうち、次の 5 点は本書といくつかの点で一致している。

L' Angleterre, ou costumes, mœurs, et usages des Anglais. Paris, Gide fils, ca1821.

Hiler p.300 Colas 1013

L'Autriche ou costumes, mœurs et usages des Autrichiens. Paris, Gide fils, ca1821.

Hiler p.300 Colas 1014

La Chine ou costumes, mœurs et usages des Chinois. Paris, Gide fils, ca1822.

Hiler p.300 Colas 1015

La Russie, ou costumes, mœurs et usages des Russes. Paris, Gide fils, ca1823.

Hiler p.300 Colas 1016

La Jurquie, ou costumes, mœurs et usages des Jurcs. Paris, Gide fils, ca1827.

Hiler p.300 Colas 1018

これらにはいずれも各々 24 枚の図版が含まれている点、また本書で扱っている五か国が満たされるという点で、一致している。さらに、目録ではこのうちオーストリア、ロシア、トルコ、中国の図版の典拠となった文献を挙げているが、オーストリア、ロシア、中国のものは本館にも所蔵されており、それは以下の通りである。

Serres, Marcel de; L' Autriche, ou mœurs, usages et costumes des habitants de cet empie. Paris, 1821 <383.134-S- 1 ~ 6 >

Alexander, William; The costume of the Russian Empire. London, 1804 <383.138-A>

Alexander, William; The Costume of China. London, 1800

これらの 3 点と本書の図版とを比較してみると、描かれた人物のポーズや背景は上記の 3 点が簡素なのに対し、本書の方がより複雑である。図版の大きさにも差があるが、衣服は型、色

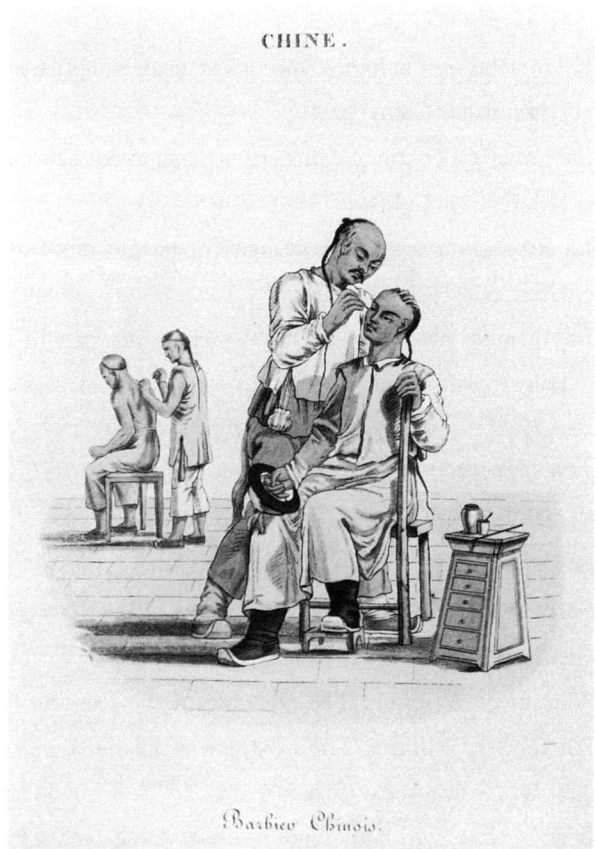
共に模倣していることは明らかである。こうした点から、おそらく本書は元来、各章ごとに個別に出版された5冊を後に1冊として出版したか、あるいは5冊をまとめて製本したものであろう。

著者エリエスはこの他、『スイスの民族服』*La Suisse, ou costumes, mœurs et usages des Suisses*. Paris, 1825 (383.134-E) も著している。

全篇を通じ、風俗を表わした手彩色銅版画一葉につき1、2頁の解説が付され、一国につき24枚の版画が集められている。これらには線刻版の自由闊達な線とアクアティントによる微妙な陰影とが見られ、地味で繊細な着彩が施されている。

登場するのは国ごとに多少の差はあるが、貴族はごくまれで、ブルジョワから下層階級までの庶民の姿である。都会の物売りや職人、兵士、地方の晴着姿や日常服の農民たちが中心で、中国ではちょうちん売り、床屋、かご屋など、また拷問や刑罰の場面も見られる。

解説は版画に表わされた衣服だけでなく、その身分、職業の人々の仕事振りからその商品の質、取扱い方から日常の習慣にまでおよび、著者の広い見聞が披歴されている。(能沢)



中国の床屋